

仮性近視

男子 十二歳 中学一年

主訴 黒板の字が見づらい(学校近視)

現病歴 先月の視力検査後より悪くなり、0.5 位になる。目は疲れやすい。

所見 数(子供はたいてい、数を打っている)圧痛は特になし。サッカーを小学校時代からやっており、やや筋肉質タイプ。

治療 「陽輔」「大腸俞」「筋縮」「T4」「大椎」「後頸部(風池、天柱、天牖等)」「睛明」「攢竹」「糸竹空」「太陽(顔面でここだけは5mm~1cm位刺入)」以上眼科処置。

経過 一回目 術後が右 0.4、左 0.5 だったのが
二回目(十五日目)に右 0.5、左 0.6 になり
五回目(三十五日目) 右 0.7、左 0.8 に見え出す。
八回目(五十七日目) 約二ヶ月で右 1.0、左 1.2 まで視力回復する。
その後五回治療したが、いずれも 1.0 以上を維持している。二ヶ月足らずで、仮性近視が矯正され、正常視力に戻ったわけです。

考察 仮性近視とは、近くを見続けると毛様体筋が異常に緊張して水晶体が厚くなり、像が網膜の前で結ぶことになり、一時的に近視状態になることをいいます。

治療はこの毛様体筋の緊張を緩めていきます。仮性近視の子供の処方穴は先に挙げた穴で、すべて目に関係が深く、目の周辺の血液循環を促し、それで毛様体筋の緊張をほぐしていきます(この処置は個別処置になり、治療システムの中では、筋系及び血管系に繋がっております)。その結果、網膜でピントのあった像として、はっきり見えてきたのではないかと思います。

ただ、視力は遺伝的要素が多分にありますので、両親とも近視の子供は多少、治りが落ちます。ちなみにこの中学生の父親はいいのですが、母親は両眼共に 0.03 でした。